

団体名	碁石地区復興まちづくり協議会
事業名	「鎮魂のハス池」整備



【事業概要】

2013年3月、平泉中尊寺より復興と平和のシンボルとして「中尊寺ハス」の株を譲り受け、被災した水田を、被災跡地の利活用として「鎮魂のハス池」を整備し、現在整備継続中である。

【実施効果】

「鎮魂のハス池」整備は、被災者及び地域住民の「憩いの場」として提供できており、さらには、地区内外からの多くの観光客への「安らぎの場」となっている。結果交流人口の増大につながっている

【今後の展開】

今年度の「鎮魂のハス池」整備は、資金の関係で未完成であるが今後この整備は継続する。現在整備済みハス池面積は1,300㎡超えであるが、最終的には8,300㎡超えまで整備し「中尊寺ハス池」としては日本最大級の面積規模となる。今後の整備対象水田は、震災後全く管理されておらず荒廃水田であり、これを整備することは遊休農地の解消となり、SDGsにおける目標15 陸域生態系の保護、持続可能な利用の推進並びに土地の劣化阻止回復を図ることができる。

整備後は、ハスの花期の最盛期である7月中旬「中尊寺ハス花まつり」を開催し、同時期開催される「碁石海岸ラベンダーまつり」と連携し、ハスの花の写真を募集しラベンダーとともに碁石海岸花の写真展を開催し、優秀作品を表彰、中尊寺ハスの思いを乗せてPR、観光地碁石海岸への集客を図る。

【市民のみなさんへ一言】

整備している「鎮魂のハス池」は、870年前、平泉中尊寺の初代藤原清衡の平和思想 平和で争いのない極楽浄土世界を今ここに再現したいと考えている。

このハスの花を見ることで、震災を忘れることなく後世に語り継ぎ、被災地の一日でも早い復興を願い、鎮魂の念をもって犠牲者に寄り添ってほしい。

ハスの花言葉 「清らかな心」

《 中尊寺ハス 花凜とし我に言ふ 清く生きよと戒しむること 》

東海新報 掲載

令和4年7月20日(水)



開花のシーズンを迎えた中尊寺ハス(電子新聞に別写真あり)

安らぎの花に癒やされ 末崎「中尊寺ハス」見ごろ
大船渡

「被災地復興のシンボルとなるように」と平泉の中尊寺から株分けされたハスの花が、大船渡市末崎町西館の畑で迎える。地域団体の手で大事に育てられ、復興の進展とともに少しずつ増えていった。「中尊寺ハス」は、極楽浄土を風わはる安らぎの光景を津波浸水域に生み出している。

県道27号の善石海岸へ向かう途中に咲くハスは、平成26年8月に平泉町の中尊寺から株分けされたもの。株を培養・増殖したのち27年に現在地へ移植され、善石地区復興まちづくり協議会が管理している。

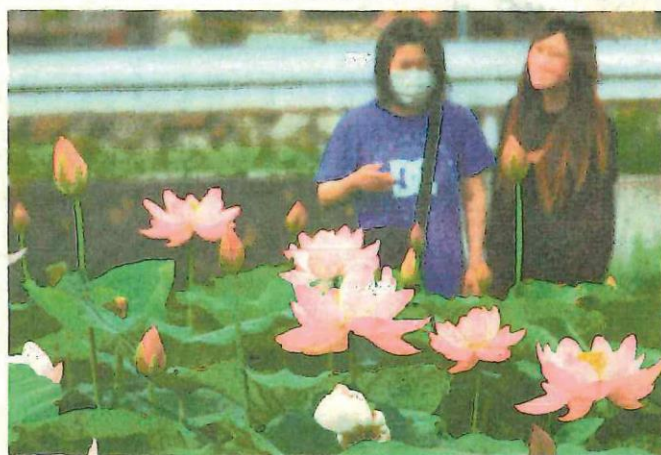
泥を多く含んだ池の中から咲くハスに目を伸ばして、

大輪の花を咲かせる蓮華は、神秘的なもの。大きな葉の中央に蓮華をたたき、葉も、宝石が生かされるように目を惹きつける。花は午前5時頃咲き始め、午後7時頃まで咲き続ける。蓮華は、蓮華の葉や花びらに、蓮華の香りが漂う。蓮華の葉や花びらに、蓮華の香りが漂う。蓮華の葉や花びらに、蓮華の香りが漂う。

岩手日報 掲載

令和4年7月17日(月)

浄土の祈り花開く 被災跡地の中尊寺ハス



鮮やかなピンク色の花を見せる中尊寺ハス

大船渡市末崎町の善石地区の東日本大震災被災跡地で、中尊寺(平泉町)から株分けされた「中尊寺ハス」の花が咲き始め、訪れる人の目を楽しませている。13アールのハス田に800株ほどが植えられており、今月上旬に開花。現在は緑色の葉の合間から、40輪ほどのピンク色の花がきれいな姿を見せている。

婦佐々木真美子さん(45)は「色鮮やかできれい。奥州藤原氏の歴史も感じられ、何度でも訪問したい」と見入った。ハスは復興のシンボルとして2015年に中尊寺から株分けされた。善石地区復興まちづくり協議会(大和田東江会長)が復興祈願の場として管理している。同協議会によると、今月下旬に最盛期を迎え、お盆前ごろまで楽しめる。

